

## 論点1. 目指すべき方向性

### <論点例>

#### 目指すべき方向性 (計測できる目標が望ましい)

##### ◆現在の状態

##### ◆2030年の達成目標：研究開発活動の活発化

- 例
- ・国内 CDMO の発達により GMP 準拠の治験薬を国内設備で調達
  - ・1年あたりの薬事承認件数の増加。
  - ・企業導出の増加。臨床試験以前等（要検討）の早期の企業導出の増加。
  - ・シーズの探索、実用化に向けた研究開発ノウハウの蓄積と共有。
  - ・絶え間ないシーズの生産。企業の開発候補品への開発。
  - ・AMED 支援研究から新薬が完成して上市され始める。
  - ・医薬品・医療機器等の研究開発の中核として AMED のプレゼンス向上。
  - ・製薬企業にとって、AMED 支援課題が、共同研究の有力な探索先になる。
  - ・AMED が支援した研究は、データが揃っているなど、産業界にとって質の高いシーズが育てられているとの定評が生まれる。
  - ・研究コミュニティの間で AMED 採択が成果への1種の登竜門と扱われる。

##### ◆2035年までに到達したい研究開発活動のイメージ

- 例
- ・ドラッグ・ロス問題の解消。
  - ・国が支援した研究開発から育ったパイプラインが常に複数存在。
  - ・医薬品・医療機器等開発の場としての日本の魅力の増加。
  - ・AMED へのノウハウ蓄積に基づく、安定で効果的な伴走支援の定常化。
  - ・解決済みアンメット・メディカルニーズの継続的な増加
  - ・研究支援者数が一定規模まで充足。
  - ・医療分野の研究力の獲得・継続。
  - ・創薬ベンチャーの活躍。海外 VC や海外ベンチャーが日本に注目。

##### ◆2040年のイメージ

- 例
- ・健康寿命<sup>1</sup>の延伸、健康寿命と平均寿命の差の短縮。全世代における罹患率の減少。
  - ・高齢者の社会活動、経済活動への参加増。医療費の抑制。
  - ・家庭診断及び医療機器操作の自動化で、医療従事者及び介護者の不足がカバーされ、自宅で受けられる医療サービスも増加。
  - ・医薬品・医療機器の貿易収支の改善。
  - ・医療産業の国際競争力の上昇

<sup>1</sup> 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間